第2回

鉱産資源開発小委員会

本委員会は前述の地質図作成作業部会に引き続き6月12日から17日までの6日間行われた。

ロカナサン常務委員は挨拶の後、前回の会議後ECAFE地域の諸国において鉱産資源開発促進のために行われた各種の業務、ことに学会と各政府機関の密接な協力の下に行われた業務について述べ、さらに国連本部とECAFEとの関係もますます近密になり、万国地質学会や国連の製図部、その他国連TAAなどとの協同作業も円滑に進んでその成果をあげている点について喜びをのべ、将来ますますそれを拡大強化したい旨を述べた。

次に石橋通産相が歓迎の辞と共にECAFE地域の地下にねむる鉱産資源の開発が世界各国の産業に寄与することの重大さをのべ、そのために地域の内外から集つた専門家によるこの会議のはたすべき責務の重要さを思い、この会議において立派な成果があがるよう希望すると述べた。

ついで日本の久留島秀三郎氏が議長に選出され会議が開始された。

主な議事項目は次の通りである

1. 第7・8回工業貿易委員会と第1回鉱産資源開発小委員会の展望と1955年における鉱産資源の開発についてのECAFE事務局の活動について報告
2. 鉱山開発について各国の年間報告
3. ECAFE地域において鉱産資源開発に関して作る法律の起案について討論
4. ソ連・西欧視察団の報告
5. 各国の燃料事情について報告・意見の交換
6. 地域全体に適用される石炭の分類・規格について討議
7. ECAFE地域の鉱産資源開発について国連TAAの援助について
8. 鉱産資源開発助成のためなすべき仕事とその順序について討議

以上の各項目について報告・討議がなされ、それぞれ積極的な建設的意見が発表されて多大の効果をおさめた。終りに次回の会議は1957年11月バンコックで行われる予定の第9回汎太平洋学術会議の時に合わせて開くことを希望して閉会した。

見　学　旅　行

今回の会議中には次のような見学旅行が行われた

1. 日　光　（6月8日　約35名）
   男体山を中心とする火山群の見学と標本採取後東照宮その他を見物
2. 地質調査所　（6月9日午後　約20名）
   兼子所長の説明後所内を見学
3. 箱　根　（6月10日～11日　約40名）
   東大久野教授の説明で富士・箱根火山地帯の見学
4. 北海道・東北地方　（6月18日～24日　外人26名）
   19日　夕張炭田
   20日　登別の地獄谷および、室蘭市の富士製鉄昭和新山を見学
   21日　十和田湖見学
   22日　小坂鉱山の見学
   23日　松尾鉱山の見学
   24日　帰　京

地質ニュース　特集　第9号　昭和31年8月発行　編集と発行　工業技術院　地質調査所　印刷　東都工芸印刷株式会社